

## ホオジロ



2008年5月23日 藻岩山スキーリフトの最上部近くで看板を建てる作業をしている最中にホオジロの囀りが聞こえていました。ちょっと作業を抜け出して映像をゲットしました。内地では九州でも多摩でもコモンな存在で、姿もよく見かけていましたが、札幌では見かけはしてもやたらと警戒されてカメラでゲットしにくい鳥だったのです。この映像にしても前にある葉が邪魔をして完璧ではありませんが、識別可能な映像ではあり、満足しております。

ホオジロは里山の鳥です。林と草地の境界あたりが好みのようにそんな環境でよく見かけます。過眼線がはっきりした黒で頬のあたりが白にはちがいありませんが、顔の側面が白地に黒か黒地に白かのどちらともいえる様子ですが、側頭から喉にかけては白の面積の方が広く過眼線と頬線にかけてが黒で、その頬のあたりが白抜きされている様子からホオジロと命名されたのでしょう。藪のあたりをチラチラと飛ぶときに尻尾が特徴的でもあります。長めの尾の中央部は茶褐色で両端部白斑が目立つ黒羽が見えます。スズメ目ホオジロ科として科を代表しておりますように全国的にコモンであるわけです。



看板はご覧のとおり「幌南の森」となっております。幌南小学校は「メボソムシクイ」のページでふれたように当協会と関わりの続いている学校で、子供達の森として藻岩山スキー場のドまん中に残されたアイルの森全体を「幌南の森」としてこれから子供達が楽しめるように整備を進めることとなります。後期高齢者を含むその予備軍達が小学生達との交流の森として育んでいくことが出来ると思うだけでもわくわくしてまいります。

材料は北海道神宮の風倒カラマツを製材したもので、厚さ 5 cm の無垢板 2 枚を使用しました。字は幌南小学校 PTA の方によりますが、木地師、絵師、彫師、塗師と多くの会員が手分け時間分けして、ああしよう、こうしようといわか船頭達がワイワイやりながら完成させたもので、この日の現場作業も 12 人もの組み立てと土方仕事希望者の参加がありましたので、10 時～11 時 30 分頃のほぼ 1 時間半で建ててしまいました。